冬目景先生インタビュー

４月１３日生まれ。神奈川県出身。

まんがとの出会い
〇子供のころに好きだったまんが、作家
高橋留美子さんと田渕由美子さん。高橋留美子さんは「少年サンデー」をたまに読んで『うる星やつら』もちょっとずつは読んでいたりはしたのですが、単行本を買おうと思ったのはアニメ化になったのがきっかけで、もう１０巻ぐらい出ていました。でもほんとうは『めぞん一刻』のほうが好きなんですよ。キャラクター的にはラムちゃんとか好きで、話的には『めぞん一刻』。『めぞん一刻』は最初、単行本を読んでいましたが、やはり雑誌連載も読みたいじゃないですか。それで「ビッグコミックスピリッツ」を買ったのですが、当時は中綴の雑誌を買うのは抵抗がありました。大人の本を買うみたいで（笑）。

〇アニメでは
テレビはあんまり熱心には見ていませんでした。『うる星やつら』とかは映画も行きましたが、原作のほうが好きでしたし。でも『とんがり帽子のメモル』＜図１＞はキャラクターがかわいくて好きでした。名倉靖博さんは今でも好きですよ。
＜図１＞『とんがり帽子のメモル』
東映。84年から約1年間放映。宇宙船の事故で地球に不時着した小さな宇宙人の女の子と地球人の少女との交流が描かれる。『メトロポリス』の名倉靖博が一躍注目を集めた作品。図版は当時、講談社から全3巻で発売された名倉靖博の描き下ろしイラスト満載の絵本。

〇小説は？
あまり流行っているものは読まなかったですね。中学生のころはすごい昔の泉鏡花とか、江戸川乱歩、谷崎潤一郎とか、今で言えば耽美系を読んでいました（笑）。乱歩は小学校の図書館にあった『二十面相』あたりから読み始めました。あと内田百間も読んでいました。

〇まんがを描きはじめたのは？
　中学生のときに友達同志で真似事みたいなものを描いて本を作り、回し読みをしていましたが、あんまりたくさんは描いていなくて、本格的に描こうと思ったのは大学に入ってからです。

〇きっかけは？
　とりあえず漫研に入ったので（笑）。それまでは普通の絵を描いていました。高校時代は美大を目指して予備校に通っていて、毎日、毎日6時間くらいデッサンをやっていて、その時期はまんがも読んでいません。

〇大学に入ってそれまでのフラストレーションから開放された？
　そうですね（笑）。美大の漫研ってどんなのだろう、とちょっと思って、ＯＢにしりあがり寿さんとかおられたので、のぞいたらそのままズルズルといてしまったという感じです。

〇油絵は予備校で描き始めたのですか？
　高校時代、クラブには入っていなかったのですが、放課後、美術室とかで油絵は描いていました。

〇それは絵を描くのが好きだったからですか
　基本的にはそうです。誰の影響というわけでもないのですが。

〇油絵を描くのはいろいろと大変ですよね
　けっこう道具もいろいろ揃えないといけないし、絵具自体もちょっと高いし、キャンバスとかも高い。

〇大学の漫研に入ってからは？
　会誌を出すからまんがを描かなきゃいけないみたいな感じになって（笑）、そこからなんとなく描き始めたかな。

図1

図2

図3

〇まんがをすぐに描けるものですか？
　まんがは小学校、中学校とずっと読んでいたので、方法論みたいなものはなんとなく持っていたような気がします。

〇どんな内容のものを描いていましたか？
　内容的には暗い感じの…（笑）。高野文子＜図２＞さんの『絶対安全剃刀』に内容的には近いものがありました。学生っぽい子が主人公でとか。
＜図２＞高野文子
７０年代後半、大友克洋をはじめニューウェイブと呼ばれた先進的なまんがを描いていた作家のひとり。図版は単行本『黄色い本』の刊行に際し、インタビューを行ったまんがの森小冊子５０号（０２年３月）

〇高野文子さんにはインスパイヤされた？
　そうですね。初期の頃の作品とかそうかもしれない。ただ当時はもう『絶対安全剃刀』は古典の名作扱いになっていました。

〇同人誌は？
　オリジナルの同人誌を出したのは、デビューしてからです。発表できなかった作品をそれなりに形にしたいなぁと思って作りました。

デビュー
〇はじめての投稿作品が『六畳劇場』（92年）＜図３＞とありますが、いろんな雑誌に投稿したのですか
　あんまり行かなかったですね。「コミックバーガー」に投稿したのはなんとなく。吉田戦車さんが載っていたからかな（笑）。ほんとうはいろいろ行こうと思っていたのですが、「コミックバーガー」は最初の頃に行って割と良い反応だったので、他のところにはそんなに行かずに「コミックバーガー」でやってみようと思ったわけです。
＜図３＞『僕らの変拍子』
●幻冬舎コミックス　●540円＋税　●2年1月24日初版
『六畳劇場』をはじめ、デビュー作『こんな感じ』（92年）など初期の短編全7作を収録。
巻末には未使用の予告カットも掲載。

〇投稿は在学中ですか？
　卒業してからです。

〇まんが家になろうと思ったのはいつ頃ですか？
　大学院に行こうと思っていたんですけど、受験したら落ちたので就職活動もしてなかったから、どうしようかな、まんが描いてみようかな、って（笑）。

〇大学院に行こうと思ったのは画家を目指していたわけですか？
　画家になるのはすごく大変なので、そこまでは考えていませんでした。でもまだちょっと絵を描いてみたいなぁと思っていました。

〇ではまんがは大学時代、けっこう描いていたわけですか
　漫研でも描いていたのもあるし、個人的にもなんとなく描いていました。まんがが描ければ楽しいかなというくらいで、別にプロになろうとか、その頃にはそんなに真剣には思っていませんでした。

〇デビューしてから毎回、コンスタンスに描けましたか？
　当時はそんなに問題でもなかったですね。割と自由にやらせてもらいました。ただ雑誌が青年誌ということなので、学生が主人公だとどうかな、というのと、当時の編集長から時代ものはちょっとダメというのはありましたが。

〇デビューからすぐ連載だったのですか